

## 世界は見えることを 前提につくられている

社会インフラ、人とのコミュニケーション、スポーツ、  
芸術、労働や教育など、私たちのあらゆる活動は  
「見ること」を通じて成り立っているといわれています。  
見えることが当たり前の世界では  
その重要性に気づきにくいかもしれません。  
目を閉じ、視覚に頼らない世界に入ってみると  
私たちの行動や生活は一変します。  
人々が生きるうえで、目は大切な役割を担っているのです。



目の重要性と社会課題

# 目の不具合に関する社会課題

## 失明もしくは視力障がいの人口<sup>\*1</sup>

失明または  
視力障がいの状態で  
暮らしている人口

22億人

10億人

予防または  
治療が可能な人口

現在、世界で少なくともおよそ22億人が失明または視力障がいの状態で暮らしているといわれています。また、このうち少なくとも10億人は予防または治療が可能な視力障がいです。今後の人口増と高齢化、ライフスタイルの変化などにより、その数は増加することが予想されます。

## 世界の罹患数<sup>\*1</sup>



世界には、さまざまな眼疾患を抱える人々がおり、多くの人は人生において何かしら目の健康に対処しなければいけない時が訪れます。眼疾患の中でも世界で最も患者数が多いとされる近視は、2030年には33.6億人に増加するといわれています。

## 視力障がいによる経済損失

年間  
約**4,107**億ドル<sup>\*2</sup>

世界的に増加する視力障がいは、年間およそ4,107億ドルもの経済損失をもたらすといわれています。目の健康に対する取り組みは、教育や労働力の向上にもつながり、持続可能な社会の実現においても極めて重要な社会課題です。

<sup>\*1</sup> 出典：WHO「World report on vision」 <sup>\*2</sup> 出典：The Lancet Global Health Commission on Global Eye Health: vision beyond 2020